令和6年度

学校評価

集計結果

学校評価委員会

令和6年度 北海道帯広聾学校 学校評価（教職員）集計

配布数 21

評価項目：A：よくあてはまる B：あてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

回収数 21

回収率 100%

項 目		評 価 項 目					A	B	C	D	E	R6	R5	比較
							4	3	2	1	0			
教育の重点について	(1)	教材研究の充実とOJTによる研修を深め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	4	17	0	0		3.2	3.1	新設				
	(2)	主観的・客観的・共感的な理解に基づく実態把握と聴覚障がい教育の専門性の充実に努める。	9	11	1	0		3.4	3.2					
	(3)	発達の連続性を踏まえ、一貫性のある教科指導力・生徒指導力の向上に努める。	5	15	1	0		3.2	3.2					
	(4)	他の障がい種の知見を広げ、子どもたちの特性を踏まえた指導・支援に努める。	7	12	2	0		3.2	3.1					
	(5)	教育的効果を図ったICT活用等による授業改善及び授業実践及び幼児期におけるプログラミング的思考の育成に努める。	2	13	6	0		2.8	3.0	新設				
経営の重点について	(6)	安全で安心な学校の環境づくりと指導の充実（防災・防犯、食育、学校保健、各種感染症予防）に努める。	12	9	0	0		3.6	3.3	新設				
	(7)	地域や関係機関及びろう・難聴者との連携強化に努める。	6	15	0	0		3.3	3.0					
	(8)	「コミュニティー・スクール」（学校運営協議会）を活用し、社会に開かれた学校づくりと地域と連携した教育活動に努める。	3	17	1	0		3.1	3.0					
	(9)	教職員が自ら効率的な働き方を具体的に見直し、健康を維持し、質の高い教育実践に努める。	3	14	4	0		3.0	3.0					
	(10)	心理的安全性を保障した組織づくりと幼児児童生徒及び教職員のウェルビーイング向上に努める。	6	15	0	0		3.3		新設				
	(11)	十勝の聴覚障がい教育のセンター的機能の発揮に努める。	8	13	0	0		3.4	3.3					
学校運営	1	学校経営について	(12)	学校教育目標の実現に向けて、各分掌・学部で重点目標、具体的方策、年間計画が設定されている。	10	11	0	0		3.5	3.5			
			(13)	学校の教育理念や幼児児童生徒、保護者、地位の実態を考慮して経営方針・教育方針を設定している。	9	12	0	0		3.4	3.3			
			(14)	保護者や地域へ、積極的に学校情報を発信し、相互の理解や協力を深めている。	9	12	0	0		3.4	3.4			
			(15)	全教職員が互いに協働し、機能的、組織的な学校運営に努められている。	5	14	1	1		3.1	3.2			
	2	教育課程について	(16)	教育課程は幼児児童生徒の実態に応じて適切に編成されている。	8	13	0	0		3.4	3.4			
			(17)	幼児児童生徒の活動や学習については、客観的な評価や評定などが行われている。	8	12	1	0		3.3	3.2			
			(18)	学習指導要領の内容を理解し、各教科・領域ごとの年間指導計画が作成され実施されている。。	9	12	0	0		3.4	3.3			
			(19)	学校行事は、幼児児童生徒の実態や学習のねらいなどに即して適切に実施されている。	6	15	0	0		3.3	3.4			
			(20)	学校全体の共通理解のもと、生徒指導が進められている。	6	13	2	0		3.2	3.2			

について	3	生徒指導について	(21)	人権についての理解を深め、互いを尊重する意識と態度を育てる指導がなされている。	6	15	0	0		3.3	3.2	
			(22)	いじめや体罰を根絶する意識を高め、指導にあたっている。	12	9	0	0		3.6	3.5	
			(23)	自ら考え、自主的・創造的に行動ができ、幼児児童生徒の力が発揮できるように指導を工夫している。（児童生徒会行事を含む）	7	14	0	0		3.3	3.2	
	4	学校保健・食育について	(24)	養護教諭を中心に、幼児児童生徒の生活や健康状態を十分に把握し、適切な健康管理が行われている。	14	7	0	0		3.7	3.5	
			(25)	給食は幼児児童生徒の好みや健康などを考えて、献立や調理の工夫がなされている。	16	5	0	0		3.8	3.8	
			(26)	日常的に、保健指導、食育指導がなされている。	12	9	0	0		3.6	3.5	
	5	事務・学校予算について	(27)	各種予算の透明化が図られ、学校教育目標や重点目標、経営方針に沿った予算執行が行われている。	8	11	2	0		3.3	3.5	
			(28)	全教職員がコスト意識（費用や効果）をもって、組織的、計画的に業務に当たっている。	4	11	6	0		2.9	3.0	
			(29)	事務の業務は、関係する教職員と連携・協力を図りながら進められている。	7	14	0	0		3.3	3.6	

○ 教育の重点について

- ・ICTを活用した学習を個人的ではなく、組織全体で積極的に行っていく必要があると思います。
 - ・指導の方法を時々見直し、実態にあった対応をするようにしている。
 - ・他障害に関する研修も必要かと思います。自閉スペクトラム症、ADHDなど。
 - ・ICTについては、それぞれの先生方がどのような使い方ができるか試行錯誤しながら進め、授業研を見合う中で、発達段階に応じた使い方等を共有している。
- 近隣小中学校のICT使用例を見る機会や研修を受ける機会があると、とても参考になる
- ・他者の視点から自分の弱点をみてもらい客観的なアドバイスをもらうか積極的に研修を自ら受けに行く。

○ 経営の重点について

- ・センター的機能を担える人材育成のためには個々の努力はもちろんですが、加えて経験を通して学ぶことができる環境も必要だと思います。先生方にはいわゆる経験値が必要だと思います。幼児児童生徒数が減ると学級が減って職員数も減ります。学級運営、複数子どもへの一斉指導、様々な障がい重複する子どもへの指導、保護者支援、教科指導、自立活動など子どもが学校にいて、はじめて教員も学ぶことができます。これらの経験値の先に地域が抱える多様な課題への対応力が育まれると思います。幼児児童生徒数の確保を多面的な視点から方策を練っていく必要を強く感じます。
- ・来校者が多かったため、挨拶などの対応を児童にわかりやすいように見せるようにしている。
- ・いつも仕事だけでなく、家庭のことまで気にしていただけに感謝しています。
- ・行事がどうしても増えていってしまう。一つ行事を増やす際は、何を削るかということも考えながら、継続して取り組んできた行事等についても改めて見直しを図っていく必要があると思う。

○ 学校運営について

1 学校経営について

・学校運営の目標達成のためには協働が必要だということはみなさんが理解していることだと思います。協働するためには一部の先生に負担がかかったり、協働がしにくい環境だったりしては組織的、機能的な学校運営は難しいと思います。とはいえ先生方は一人一人が家庭事情や、職場内の事情など様々な事情を抱えています。一部の先生に負担がかかってしまえば「どうして私だけが・・・」と辛くなってしまいます。様々な事情を抱える教職員が丸となってウェルビーイングを目指す場合、共通の枠組みが守られることが心理的安全にもつながると思います。共通の枠組みはいろいろあると思いますが、その1つが勤務時間だと思います。様々な事情を抱える教職員でも多くの場合、勤務時間は共通の枠組みになります。勤務時間内に終えることができる運営内容になるように管理職、学部、分掌等で改めて見直していくと今以上にウェルビーイングに繋がるように思います。

・学部や分掌の業務について、個人の裁量に任される業務を整理し、機能的で組織的な学校運営を図ることが必要だと思います。

・他の職員は、自分から働きかけると親身になって相談に乗ってくれること。

・(15)については、教職員がお互い協働的に効率的に計画的に動いているかを振り返る必要がある。

2 教育課程について

・児童の力が発揮できるように発表の場を探して活動した。

3 生徒指導について

・生徒指導については、学部止まりにあることもあるので、必要な情報を確認して全体周知していくようにする。

・児童生徒に対して全ての職員が敬意をもって接していて大変良い。しかし子ども一人一人のアセスメントにおいて適切かどうか自分だけの思いだけではなく日頃職員間で話しておく必要がある。

5 事務・学校予算について

・予算について、分掌や学部で支出が必要な場合、支出が可能なのか、どこから支出されるのかなど、その都度、事務と相談をしています。例えば、「プリンターの故障の場合は、〇〇という区分からの支出で、△△円配分されている」のように、数字がわかると、事業の実施の可否に関する検討に生かされたり、コスト削減の意識につながったりすると思います。

・クーラーや加湿器、照明などの節電を念頭に入れて過ごした。

・事務室の皆さんは、いつも懇切、丁寧に手続き、説明などしていただき、感謝しています。

・27の評価Cというのは、予算を軽んじているわけではなく、職員が結構わかっていないことが多くある。また、年度初めに予算を考えて校外の活動を入れているのではなく、突発的なものを計画しないようにしたほうが見通しをもって子どもも職員も活動できると考える。予算の計画の執行もスムーズだと思う。

○ その他、ご意見のある方は記入してください。

・職員人数はそう多くはない職場であるが、職員間の連絡が十分ではない時が散見される。改善策として

→ICTをより効果的に活用する（分掌、学部内でチャットなどを積極的に活用する など）

→職員の意識を変える（分かっているだろう、伝わっているだろう で進めない）

・グループ研は木曜日に行われることが大半だが、ほぼいつも休憩時間に入ってしまった。改善方法としては、児童生徒下校時刻を10～15分早めて、研修開始を早めること。また、職員会議を2か月に1回、分掌部会、学部会を1か月半に1回に減らし、空いた水曜日にグループ研を入れるようにすると良いのではないか。来年度は北聴研があり、打ち合わせする日が増えると予想されるので、会議、部会の精選は必要だと思います。

・校外学習や外部団体が入っての活動においては、予算に関わる関わらないに関係なく、年間の見通しがもてるよう計画をたて、学校全体に周知できると良いと思う。

令和6年度 北海道帯広聾学校 学校評価（保護者）集計

配布数 15

評価項目：A：よくあてはまる B：あてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

回収数 10

回収率

66.66%

評価項目		A	B	C	D	E	R6	R5	比較
		4	3	2	1	0			
(1)	学校ではいじめがなく、子どもは、楽しく学校に通っている。	10	0	0	0	0	4.0	3.9	↑
(2)	学校は、学校教育目標や年度の重点などをわかりやすく伝えている。	9	1	0	0	0	3.9	3.4	↑
(3)	学校は、保護者の願いに応えようと努力している。	9	1	0	0	0	3.9	3.5	↑
(4)	学校は、家庭への連絡などを適切に行っている。	7	3	0	0	0	3.7	3.3	↑
(5)	学校は、保護者が授業を参観する機会を適切に設けている。	7	3	0	0	0	3.7	3.5	↑
(6)	子どもの指導についての話し合いが、担任とよくできている。	10	0	0	0	0	4.0	3.6	↑
(7)	学習の様子は、学級通信や連絡帳、授業参観、懇談などをとおして知ることができている。	8	2	0	0	0	3.8	3.6	↑
(8)	学校は、家庭と連携して、子どもの健康保持増進に努めている。	9	1	0	0	0	3.9	3.8	↑
(9)	学校は、家庭と連携して、子どもの事故防止に努めている。	8	2	0	0	0	3.8	3.6	↑
(10)	学校は、子どもに合わせたコミュニケーションの方法で指導を行うように努めている。	9	1	0	0	0	3.9	3.6	↑
(11)	学校の日課は、子どもの実態に合わせている。	7	3	0	0	0	3.7	3.8	↓
(12)	授業は、子どもの実態に合わせてわかりやすく行われている。	7	2	1	0	0	3.6	3.5	↑
(13)	通知票は、子どもの指導のめあてや経過がわかるように書かれている。	8	2	0	0	0	3.8	3.6	↑
(14)	学校の施設・設備は、学習環境面で充実している。	8	1	1	0	0	3.7	3.2	↑
(15)	学校は、子どもの実態にあった食育指導に努めている。	9	1	0	0	0	3.9	3.6	↑
(16)	学校は、保護者への情報提供に努めている。	8	2	0	0	0	3.8	3.4	↑
(17)	教職員は、子どもの人権を尊重する姿勢で指導にあたっている。	10	0	0	0	0	4.0	3.6	↑
(18)	子どもに関するプライバシーがよく守られている。	6	4	0	0	0	3.6	3.5	↑
(19)	学校からの文書などについて、よく目を通してしている。	8	2	0	0	0	3.8	3.5	↑
	その他ご意見等ありましたら、ご記入ください。								
(20)	・教科によってですが、子どもから「手話があまり無く早口でわからない」と聞く事があります。「100%手話を！」と言うのは無理だと思っていますし、そこまで完璧は求めていません。同じように手話が少ない教科でもわかりやすいと言っている教科もあります。手話があまり無いのであれば他の方法で子どもに伝えるように授業をやってもらう事は難しいですか？								

令和6年度 北海道帯広聾学校 学校評価（中学部）集計

配布数 2

評価項目： A：そうおもう B：だいたいそうおもう C：あまりそうおもわない D：そうおもわない E：わからない

回収数 2

回収率

100%

評価項目	A	B	C	D	E	R6	R5	比較
	4	3	2	1	0			
(1) 学校に行くのが楽しい。	2	0	0	0	0	4.0	3.7	↑
(2) 自分からあいさつをすることができる。	2	0	0	0	0	4.0	3.7	↑
(3) 仲間とともに学び合う学習を行っている。	2	0	0	0	0	4.0	3.7	↑
(4) 先生方は教え方にいろいろな工夫をしている。	2	0	0	0	0	4.0	4.0	—
(5) 先生は私たちのことをよく理解してくれる。	1	1	0	0	0	3.5	3.7	↓
(6) (自分は) 敬語など正しい言葉遣いをしている。	0	2	0	0	0	3.0	2.7	↑
(7) 給食はおいしい。	2	0	0	0	0	4.0	4.0	—
(8) 命の大切さや社会のルールについて学習している。	2	0	0	0	0	4.0	3.7	↑
(9) 担任の先生の他にも、気軽に相談できる先生がいる。	2	0	0	0	0	4.0	3.7	↑
(10) できるだけ本を読むようにしている。	1	0	0	0	1	2.0	1.7	↑
(11) 規則正しい生活を心がけている。	0	1	1	0	0	2.5	1.7	↑
(12) 学校のことなど家族といろいろ話している。	1	0	1	0	0	3.0	2.3	↑
(13) 家の手伝いをしている。	2	0	0	0	0	4.0	3.3	↑
(14) 将来の職業（仕事）について考えることがある。	1	1	0	0	0	3.5	3.0	↑
(15) 1日の睡眠時間はどれに近いですか。 A：6時間未満 B：6～7時間 C：7～8時間 D：8時間以上	0	0	2	0	0	2.0	2.0	—
(16) 1日のゲームやスマホを見る時間はどれに近いですか。 A：1時間未満 B：1～2時間 C：2～3時間 D：3時間以上	1	0	1	0	0	3.0	3.0	—
(17) 学校以外での平日の平均学習時間はどのくらいですか。 A：1時間未満 B：1～2時間 C：2～3時間 D：3時間以上	2	0	0	0	0	4.0	3.7	↑
(18) 悩み事があったらどうしますか。 A：先生に相談する B：友人に相談する C：家族に相談する D：自分で調べる E：そのまましておく	A 2	B 1	C 2					
(19) 意見があれば、書いてください。								